

活動実績 (2019年6月～11月)

- 【地域活動】
- サガリバナ観賞会:国場集落6/28(金)、首里崎山町馬場通り6/29、30(土・日)、末吉公園7/6(土)
 - 自然と環境の学習の場創り事業
 - 緑化活動:南岸6/22(土)、11/16(土)、北岸7/20(土)、8/17(土)、9/28(土)、10/19(土)
 - 出前講座
 - 沖縄県緑化推進委員会「みどりの講演会」:7/26(金)
 - 城南こども園親子レク:10/12(土)
 - 団体受入
 - NECマネージメントパートナー:6/29(土)
 - トヨタソーシャルフェス:7/13(土)、10/26(土)
 - ノートルダム清心高等学校:10/18(金)
 - エコツアー
- ライトトラップで夜の昆虫観察:7/28(日)、7/31(水)、9/11(水)、9/15(日)
- 第5回おきなわエコツーリズムセミナー:10/9(水)
- イベント出展
- おきなわ国際協力・交流フェスティバル:11/2、3(土、日)
 - 水辺講座「OEC自由研究お助け隊!」
 - 「ふしぎがいっぱい!水のわくわく実験教室」:8/5(月)
 - 「大人も知らない!?『海岸植物』の世界!」:8/13(火)
 - 「リサイクル名人になろう!『貼り絵アート』づくり」:8/20(火)
 - インターン受入:8/19(月)～21(水)

活動予定 (2019年12月～2020年5月)

- 【地域活動】
- 自然と環境の学習の場創り事業
 - 緑化活動:南岸12/21(土)北岸1/18(土)、以降、毎月開催予定
 - 団体受入
 - 長野日本大学高等学校:12/18(水)
 - イベント出展
 - 第25回国場川水あしび:12/7(土)
- 【国際協力】
- 受託事業
 - JICA研修員受入事業:日系研修 - 「沖縄のツーリズム・ストラテジー」:1/20(月)～2/28(金)
 - JICA草の根技術協力事業「南東スラウェシ州ワカトビ県における地域に根差した環境保全型観光開発の推進」:2017/3/15(水)～2020/3/31(火)

お知らせ

会員・ボランティア募集

入会申込はホームページからお願いします。緑化活動をお手伝いして下さるボランティアを随時募集しています。お気軽に電話やメールでご連絡ください。

達人デリバリー (出前講座) ミライへ・プロジェクト (団体受入)

お申込み・お問い合わせはこちらまで!
TEL 098-833-9493
E-mail gyomu@npo-oec.com

JICAエコツーリズム研修アルバム

7月～8月、10月～11月に「熱帯・亜熱帯におけるエコツーリズム企画運営(A)(B)」コースを実施した。



古宇利ビーチにも立ち寄りました



首里のすーじくわーで休憩



みんなでお話を合わせて...



東村では農作業のお手伝い

- 【国際協力】
- 受託事業
 - JICA研修員受入事業:課題別研修 - 「熱帯・亜熱帯におけるエコツーリズム企画・運営(A)」:7/8(月)～8/23(金)、「同(B)」:10/7(月)～11/22(金)
 - JICA草の根技術協力事業「南東スラウェシ州ワカトビ県における地域に根差した環境保全型観光開発の推進」:2017/3/15(水)～2020/3/31(火)



英語コースの修了式(8月)



スペイン語コースの修了式(11月)

特定非営利活動法人
おきなわ環境クラブ

〒902-0075
沖縄県那覇市国場370番地307号室
TEL 098-833-9493
FAX 098-833-9473

ホームページ
<http://www.npo-oec.com>
e-mail kokuba@npo-oec.com
www.facebook.com/OkiEnv



OEC ニュースレター

～ 自然と環境の保全是足元から～
特定非営利活動法人おきなわ環境クラブ (OEC)

vol.33
2019年12月発行

- 【1面】
●国場川ごみゼロ作戦
- 【2面】
●ワンギ★ワンギ島通信 No.6
●OECの環境学習プログラム
●水辺講座
- 【3面】
●マングローブのつぶやき～その15～
●国際協力・交流フェスティバル
●第5回おきなわエコツーリズムセミナー
- 【4面】
●活動実績
●活動予定
●お知らせ
●エコツーリズム研修 アルバム

ピックアップ 国場川ごみゼロ作戦

今年4月、「脱プラスチック」をテーマにしたNHK BSスペシャル番組が放送された。2016年のダボス会議では、世界では毎年800万トン以上のプラスチックごみが海に流出しており、この状態が続けば2050年にはその量が魚の量を上回るとの予測が発表されている。約30年後、皆さんはその年月を長いと感じるだろうか、それとも短いと感じるだろうか。

海洋プラスチックごみの生き物たちへの影響は深刻である。タイの海岸では衰弱したクジラの胃袋から大量のレジ袋が、ミッドウェー島ではアホウドリの死骸の胃袋からペットボトルの蓋やライターなどが出てきたり、ニュージーランドでは漁具が体に絡まり死んでしまうオットセイやアシカが毎年およそ1,500頭もいると言われたりと、世界中で報告されている生き物への被害は枚挙に暇がない。

そして、近年高まりを見せているプラスチックストロー廃止運動。きっかけは2015年のコスタリカで発見された鼻にストローを詰ませたウミガメを救う動画だが、コスタリカでは同時期に鼻にプラスチック製フォークを詰ませたウミガメも発見されている。ストローのような小さなプラスチックはリサイクルされず使い捨てとなることも廃止運動の背景にある。



ボランティアと一緒に河岸のゴミ調査



使い捨てプラスチックの蔓延は確かに問題だが、我々消費者側にとっては、街中や海にごみが散乱している現状こそ問題と認識すべきではないだろうか。もちろん故意ではなく、風などによって拡散されるごみもあるが、県内でも漫湖をはじめ、河岸や海岸には多くの漂着ごみが見られる。行きつく先として「脱プラスチック」が掲げられていることは悲しいことだが、ごみが散乱しないよう努めることは、私たちがすぐにでも取り組むことができる方法である。



どんなごみが、どこから来てどこへ行く?

OECでは、皆様の寄付金を活用した「国場川ごみゼロ作戦」活動において、国場川周辺の清掃活動のほか、出前講座で講師を派遣し、漂着ごみ発生抑制のための普及啓発活動を行っていく。

Think Globally, Act Locally
(地球規模で考え、足元から行動する)

今こそ皆で踏み出す一歩を。
(研究員 金城明子)

ダイバー秘境 ワンギ★ワンギ島通信 No.6 JICA草の根プロジェクト@インドネシア・ワカトビ海洋公園

住民グループ(ワカパラ)のロゴがコンテストで決定しました!募集対象は特にこのプロジェクト対象地の住民を含む島内住民で、7月にポスター告知と4回の説明会を実施しました。一か月の募集の後、ワカパラ、ワカトビ県、OECが審査しました。若手新鋭が応募し、新人発掘・奨励の機会になり、島の人にワカパラの住民主体の保全型ツアーを周知し応援してもらう形にできました。入賞は、9月にワカトビ政府と共同主催したフォーラムの参加者約80名に発表、ロゴステッカーも配布しました。また、海の魚アイゴを祝う祭り(10月)のパレードでは、ロゴ横断幕を持ちSNSアカウント名入りのシャツを着て宣伝しました。



アイゴ祭りロゴを披露する中高生



フォーラム終了後ロゴコンテスト入賞者と

前述のフォーラムは、OECの地下会長、立田事務局長、東村観光推進協議会の小田事務局長などが訪問し、実現しました。訪問期間中、ワカパラのツアーの調査、島内の水質調査、知事面会、政府との連携を促進するワークショップ等を実施し、フォーラムでは調査やワークショップの結果や沖縄の事例が発表され、意見交換をしました。

(研究員 山本朝子)

トピック② 楽しい体験がいっぱい! OECの環境学習プログラム



10月26日 トヨタソーシャルフェス(団体受入)

当クラブでは結成から20年間蓄積してきたノウハウを基に作成した楽しく学べる体験メニューを随時提供している。

修学旅行や企業を対象に、ガイド付きの自然観察や在来植物の植樹などを実施する団体受入「ミライへプロジェクト」。学校・団体を対象に、講師を派遣して自然観察や環境学習を実施する出前講座「達人デリバリー」。どの体験メニューも申込者の要望を盛り込んだプログラムを提供している。

「人数が多くて断られた」、「未就学児でも楽しめるか」、「地域に貢献したい」、「地元でも実施できるか」など、お悩みの方は当クラブまでご連絡を。最良の体験メニューをどうぞ。(研究員 高嶺正満)

「人数が多くて断られた」、「未就学児でも楽しめるか」、「地域に貢献したい」、「地元でも実施できるか」など、お悩みの方は当クラブまでご連絡を。最良の体験メニューをどうぞ。(研究員 高嶺正満)

報告① 水辺講座

今年も児童・学童クラブを対象とした夏休み自由研究教室を開催。漫湖水鳥・湿地センターで「水の実験教室」や「貼り絵アートづくり」をテーマに教室を開いた。水の実験教室では、観察力を引き出すことを目的に浮沈子(ふちんし)ゲームを工作。貼り絵アートづくりでは河岸の漂着ごみを観察し、菓子袋を



アクアプランターづくり

使ってリサイクルアートを工作した。また、うるま市にも出向き、「海岸植物」をテーマに州崎マングローブテラスでの自然観察を取り入れた教室を開き、PETボトルを再利用した水辺の植物を育てるアクアプランター作りにも取り組んだ。



州崎マングローブテラスをバックに記念撮影



貼り絵アートづくり 色使いに個性が出る

今年は計60名の子供たちが参加。子供たちが楽しみながら学ぶ姿からは刺激を受けることも多い。今後もさらなる内容の充実を図っていききたい。

(研究員 金城明子)

コラム マングローブのつばやき ~その15~ マングローブを陸上で育てよう

沖縄県庁正面玄関右端出入口へ通じる歩道の植え込みに、オヒルギの壮齢木がある。オヒルギは、沖縄で見られる最もポピュラーなヒルギの一種で、河口などの汽水域に成立するマングローブ林の代表的樹種の一つ。奄美大島以南の琉球列島から東南アジアの熱帯を中心に台湾・中国大陸南部・オーストラリア・アフリカ・南太平洋の諸島などに広く分布する常緑の高木。

この種は、萼片(がくへん)が赤く色づき目立つことから別名アカバナヒルギとも呼ばれ、毎年5月頃、長さ20cm前後の胎生種子(散布体)をつける(写真1)。プランターで水漬けのポリポットに胎生種子を差し込むと、容易にオヒルギの鉢植えができる。成長に伴い大型の鉢に替え、または庭(特に池の周り)に移植することで、花を咲かせ種子をつけ、壮齢木にまで成長が楽しめる。

マングローブはもともと陸域の植物であつ

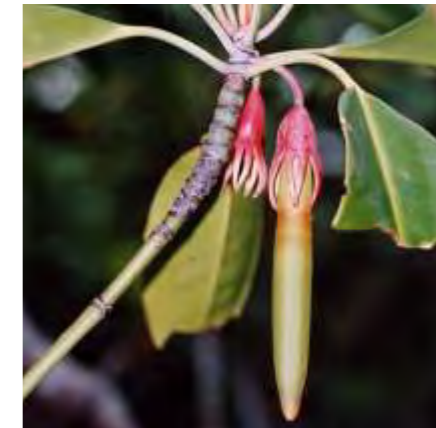


写真1 オヒルギの胎生種子

たが、ガジュマルやアコウなど他の陸生種との争いを避け、海水の塩分にも耐えられるように進化することで、河口や地下水が湧き出る汽水域へ分布を広げたとされる。このことから、庭園や池の周り、井戸端の地面、あるいは池の中やコンテナ(桶)に水漬けて鉢植えなど、庭木や盆栽樹として陸上で育てることができる。

オヒルギをはじめマングローブは、特徴的な樹形や花、種子など、面白い形質を生かした南国の庭木や盆栽樹として、大きな可能性を秘めている。

(会長 下地邦輝)



写真2 民家のオヒルギ(インドネシア ワカトビ)

報告② おきなわ国際協力・交流フェスティバル 2019

11月2日(土)、3日(日)に国際協力機構沖縄センター(JICA沖縄)で開催されたフェスティバルにブース出展した。

OECの日ごろの活動やJICAから受託している研修・草の根事業の紹介パネルなどを掲示し、ブースを訪れた大勢の方に見ていただいた。また、木の葉の色つけや国旗当てクイズの体験には子供たちが喜んで参加し、時々ブースにやってくる民族衣装に身を包んだ研修員たちのまわりには来訪者が集まり、ブース内はとても賑やかだった。

(研究員 高嶺正満)



民族衣装の研修員



色付け体験は子供たちに大人気

報告③ 第5回 おきなわエコツーリズムセミナー

10月9日、岐阜県下呂市小坂町において地域資源を生かしたまちづくりを行っている熊崎潤氏(合同会社216WORKS代表)を講師に迎え、「自称日本一から日本一へ。滝のまち飛騨小坂」をテーマに、漫湖水鳥・湿地センターにおいてエコツーリズムセミナーを

開催した。会場には、エコガイドの皆さんや遠くはやんばるからの参加者が集まり、地域資源の活用や地域活性化の優れた事例に大変興味深く耳を傾けた。

(主任研究員 川上典子)



講師の熊崎潤氏